

平成 28 年度 学校評価結果公表シート

はつしば学園幼稚園

1. 本園の教育目標

学園の理念である「夢と高い志、挑戦、そして未来創造」に基づき、“遊び・発見・学びの根っこを育てよう”に取り組めます。

教育方針

- ・日常生活の正しい習慣を身につける。
- ・身近な集団生活に適応できる規律と勇気を持たせます。
- ・まわりの自然や社会に関心を持たせる。
- ・思った事を素直に話し、人の話をよく聞きわけるようにする。
- ・自由な表現活動を重視し創造性を豊かにする。

幼稚園訓

- は いとげんきにあいさつへんじ
つ よいからだをつくります
し っかりはなしをきける子に
ば がんばるみんなははつしばっ子

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・正課授業の安定化を図ると共に、課外教室を幅広く周知し、多様な経験を通して『学びの根っこ』を育てていきます。
- ・「しつけの三ヶ条」
“朝のあいさつが出来るように”
“名前を呼ばれたら「ハイ」と返事のできるように”
“履物を自分できっちりそろえるように”
- ・立腰や茶道を通して日常生活の基本的な日常習慣の育成に役立てます。
- ・茶道は引続き裏千家淡交会より講師を招いての指導とさかい利晶の杜へ茶の湯体験を通して、子ども達自身が自分で心と体を整える力をつけさせます。
- ・はつしば学園小学校との連携として、小学校の先生による絵画指導の出前授業、知育教室、交流会等、具体的な取り組みをすすめていきます。
- ・スクールカウンセリングを引き続き実施し、保護者に子育ての悩みを相談する場を提供し、幼稚園と家庭で園児をサポートする体制を構築します。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
保護者と教職員・幼稚園の連携ができている。	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の経験者による新任のサポートで、安定した保育の提供ができ、きめこまかい保護者対応やクラス通信の配信などが、保護者にとって繋がりが強く感じられていた。
英会話・えんぴつ練習などの保育カリキュラムに満足している。	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭では文字を書くことに積極的ではない園児も、園で取り組んでいるワークは進んで取り組んでいる。また、月刊絵本も読み込んでおり、本を読むことも身につけている。 ・卒園までに読み書きができるようになるので、小学校に進学しても躓いていない。
スイミングプール・体育指導・リトミック・茶道・朗読など保育カリキュラムに満足している。	<ul style="list-style-type: none"> ・リトミックを年中・年長組の指導も今年度から取り入れ、年齢別に音楽的な分野での成長の広がりが見受けられた。 ・年長組の利晶の杜での茶の湯体験は3年間の稽古の成果が発揮される良い機会になるよう期待されている。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

具体的な目標や計画に対して、教職員全体で共通理解し、自己評価し、取組み状況を通じて各人の課題を具体的に確認することができた。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
保育の質の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・職員会議で積極的な意見交換をすることで、職員間の繋がりを深め、経験の浅い職員に保育技術や園の伝統を伝えていく。 ・学年別の会議を行う中で、週や学期の課題を計画し要点を確認し改善できるものは速やかに保育で実践する。 ・研修に積極的に参加し、取り入れながら保育の発展を目指す。 ・学年補助教員及びクラス補助教員の有効的なサポートを職員全体で連携を取り、実施する。

情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・学園ニュースを始め、入園のしおり、園便り、クラス通信、ホームページ等で学園の理念や園の教育活動を発信する。 ・特に法定伝染病の情報は、感染拡大を防ぐ目的としては大いに活用されている。 ・HP リニューアル後、保護者専用ページやはつ幼ムービーなど発信方法についても工夫しながら大いに活用していく。
正課授業のカリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> ・茶道・リトミックの正課授業における新しい試みを受けて、体育指導・英会話・スイミングなどでも、現在のカリキュラムを見直し、発展した目新しい取り組みや発達段階に適した指導を行っていく。

6. 学校関係者の評価

<ul style="list-style-type: none"> ・特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められる。年少組の30人クラスの運営については、補助教員との連携を図り、問題なく進められている。保育内容も学年補助教員の配置により、教職員の保育経験による保育の質の格差をなくすことに繋がっている。 ・正課授業の新しい取り組みは好評であり、発達段階を考慮しながら、園児の学ぶ意欲の向上に繋がるカリキュラムの作成を今後も期待している。 ・HP リニューアルの運用については、技術的な面で活用しきれていない部分を強化していく必要がある。 ・職員全体が自己点検、自己評価を通じてそれぞれの具体的な課題を設け研修に励んでいる。子どもに多くの成功体験をさせて様々な事に挑戦する強い心を育てられるよう、伝統を継承しつつ、新しい保育にも向上心をもって取り組んでいる。
